

Title	所員研究課題
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾福澤研究センター
Publication year	1984
Jtitle	近代日本研究 Vol.1, (1984. ) ,p.161- 162
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-19840000-0161">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-19840000-0161</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 所員研究課題

坂井達朗

共同研究「福澤門下生の地方での活躍」に参加し、開塾以来福澤の没年までの入門者について、その全国的な分布状況を統計的に検討すると共に、特徴のあるいくつかの地方については、具体的に塾生の出自を探索することを試みている。福澤とその塾が日本の近代化にどの様に関わり合ったかを、福澤の思想の受容のされ方、門下生の地方における活躍の仕り方の中に求めようとするのである。

これまでに熊本、福岡、島根の各県については現地調査を行なっており、熊本県については中間的報告を試論として発表した。

小野修三

日本の近代史を理論の位置から照明したいと考えているが、私の言う理論とは自己理解から始める世界の再構成ということであって、日本の近代と福澤および福澤と何らかの形で関係をもった者たちとの接点での、当事者たちの自己理解と世界把握、そして理論に立つ私自身におけるそれらにポイントを置き、人間が生きてゆくことを歴史として、

表わしてみたいと考えている。この一年間では商学部日吉論文集34号に「武藤山治の思想」を執筆。

藤田弘夫

都市―農村関係を軸とした比較社会学を研究テーマとしている。

一定の領域にはさまざまな地域組織が、範囲を異にしなから重層している。往々にして権力はこれらの重層する地域組織のなかから、その一部をへ制度化し、時にはへ法制化することによって、人々の行為を規制しようとする。現在のところ、都市―農村関係のあり方が、こうした動きにいかにかかわっているのかを、古今東西に例を求めながら研究中。

佐志 傳

現在、考証しているテーマは、義塾の三田移転に際し、起草された現在の学則規程ともいえる『慶應義塾社中之約束』についてである。この『約束』は明治四年版から同三十年版まで十数種の存在が確認されているが、当面はその

四年（三田移転当初のもの）と五年（三田の土地払下げ以降のもの）との内容の比較吟味、並びにそれらに先行する『芝新銭坐慶應義塾之記』（慶応四年四月）と『慶應義塾新議』（明治二年八月）等との関連から「社中」の意義の解明に取り組んでいる。

高木不二

主に和歌山県及び愛媛県をフィールドとして、慶應義塾卒業生の活動を自由民権運動とのかかわりにおいて追跡していきたい。現在はその第一段階として、和歌山県における代表的な豪農民権家である児玉仲児を対象をしほり、慶應義塾・福澤とのかかわり方を軸に、彼が地租改正反対闘争を経て自由民権運動に身を投じていく過程を、現地資料と慶應側資料をつきあわせつつ検討している。

松崎欣一

当面の課題としては、明治前半期の日本の諸状況が交錯する中で、学塾としての基礎を確立していった慶應義塾の、とくにそれが近代日本の知の形成の場の一つとしていかなる特質を有していたのかについて考えてみたい。現在は義塾出身者のいわゆる「演説」活動の軌跡についての追跡を試みているところである。